

ハードウェアとソフトウェアの分離接続を検証し、実現が可能であることを確認

当会に設置しているスマートナビゲーションシステム研究会4*1(SSAP4)では、2012年発足当初より検討を重ねた4つの規格(ISO16425、19847、19848、23807)の改訂及び策定に係るフォローアップを行うとともに、IT・OT・IoTの分野に関する共通課題の研究調査を行っている。

今回、当研究会に設ける共通課題検討WG*2の下に設置している「船内アプリケーション・ハードウェアとソフトウェアの分離SIG*3」において、船内アプリケーションの搭載時に、船内データの収集や活用、利用者が抱える課題や煩雑さを解消すべく、船内アプリケーション向けのハードウェアとソフトウェアを分離するためのシステム仕様を検討し、10月31日に(株)シップデータセンターの協力の下、同社が保有するテストベッドにて検証会を実施した。

内容としては、(株)IHI原動機で作成したアプリと、(株)MTIで作成したアプリそれぞれを別のCFastカードに格納したものを、産業用PCにおいて差し替えるだけでそれぞれが動作することを検証し、システムとして実際に動作することが確認できた。本検証会には船社を含むSSAP4のメンバー計22名が参加し、実際の検証作業を共有するとともに、その結果を踏まえた活発な議論も行った。

今回の検証によって、船内アプリケーションの搭載時における船内ネットワークの複雑化するアフターフォローの軽減が見込まれるとともに、船内PCの共通利用が可能となることで、将来的に多様化が見込まれる船内アプリケーションの新規参入障壁の低減化に寄与する。

- *1:2012年に発足したスマートナビゲーションシステム研究会から取組んでいる、船上及び陸上のITプラットフォームに関する調査・研究及び開発をもとに制定したISO規格のフォローアップを行うとともに、日本の海事業界全体として、船のIT・OT・IoTに関する協調領域について調査研究を行うことを目的に、座長 安藤英幸氏(株MTI)、幹事長 原裕一氏(古野電気株)をはじめとする61社・機関、120名以上の体制で研究活動を実施中
- *2:船のIT・OT・IoTに関する共通課題について議論し、必要なテーマについては担当グループとなるSIG(Special Interest Group)を設置して調査し、結果を共有している。リーダー 三好晋太郎氏(三井E&S造船株)、サブリーダー 菊池俊哉氏((一財)

日本海事協会)・柴田隼吾氏(株MTI)をはじめとする52社96名の体制で活動
*3:アプリケーションのために船内においてハードウェアを準備しなければならず、大きな労力等が生じていることから、それを解決すべく、あらかじめ準備されたPCに、HDDやCFastカードなどでアプリを供給できる仕組み作りができないかを検討する目的で設置。リーダー 橋本秀之氏(株IHI 原動機)、サブリーダー 原裕一氏(古野電気株)・川崎直行氏(ナブテスコ株)をはじめとする20社34名の体制で活動



検証会風景



検証会参加者集合写真